

宮崎兄弟資料館だより

第15号 2024/3/31

荒尾市在住の中学生18名がシンガポールへ！
—宮崎兄弟と孫文の友情の歴史を今に繋ぐ—



▲交流相手校・リバーバリーハイスクールにて、荒尾市とシンガポールの中学生との記念写真

学術交流から始まった宮崎兄弟資料館とシンガポール孫中山南洋紀念館・晚晴園との交流は、両地域の未来を担う次世代の交流へ

令和5年8月、荒尾市在住の中学2・3年生18名がシンガポールのリバーバリーハイスクールと交流し、宮崎兄弟について発表しました。2泊4日という弾丸ツアーでしたが、日本の学校との違いはもちろん、多民族社会シンガポールを実際に見ることで、参加者それぞれ多くのことを感じ取ってもらえたようです。荒尾市では、今後も青少年によるシンガポールとの相互交流を行っていく予定です。

■シンガポール対面交流行程 *リバーバリハイスクールの生徒によるガイド

- 8/1 シンガポールへ（移動日、タイ経由）
- 8/2 シンガポール リバーバリハイスクール訪問（授業参加、昼食）プラナカン博物館見学（*）、市内観光（リトル・インドア、サルタンモスク周辺、スリ・マリアマン寺院、シンガポール仏牙寺龍華院）
- 8/3 市内観光（マーライオン公園、ガーデンズバイザベイ）、晚晴園見学（*）・荒尾市及び宮崎兄弟について発表
- 8/4 荒尾帰着（移動日、タイ経由）



▲バディが学校を案内してくれ授業を体験！ランチも一緒に♪



▲街中には様々な宗教施設が見るものすべてが新鮮！

宮崎兄弟の生家施設開館30周年記念イベント 新たなかたちで宮崎兄弟を発信

まんが「宮崎兄弟物語」 トークショー＆サイン会

2021年に完成した「小学館デジタルまんが偉人伝 宮崎兄弟物語」
漫画の作画を担当された漫画家・木村直巳先生が荒尾へ！

8月19日、荒尾市中心部のシティモール・センターコートにて、木村直巳先生によるトークショーを開催。木村先生は、ドラマにもなった『監察医朝顔』の漫画を描いた方で、プロの漫画家のお話を聞く貴重な機会と多くの方がイベントに参加。漫画制作のなかで感じた宮崎兄弟・その魅力について沢山語っていただきました。「宮崎兄弟にはいろんなエピソードがあり、頁内に収めるのが大変だった。まだ描き切れていないところもある」と、次回作が期待されるような発言もあり、会場は大いに盛り上がりました。
また、トークショー後には本イベント限定で、カラー表紙へのサイン会も実施。老若男女問わず多くの方が列をなし、記念撮影にも対応いただきました。



▲イベントポスター



▲(左・中央)トークショー・サイン会のようす。多くの方が先生の話に興味津々！ (右)木村先生と荒尾観光大使・西村赤音さん

演劇「夢・桃中軒牛右衛門の」 荒尾公演

激動の時代のなかで夢を追い求めて、笑い、泣き、悩み、
抗い懸命に生きた人々の心の交流を実見する

12月10日、熊本出身の劇作家・宮本研氏原作の演劇「夢・桃中軒牛右衛門の」が、荒尾市出身の演出家で俳優の流山児祥氏により再構成され公演されました。今日の荒尾市の国際交流に繋がる宮崎滔天と家族、そして中国革命の仲間たちとの絆と交流のようすがつぶさに描かれ、荒尾市内だけでなく九州圏内から多くの方が観覧しに訪れました。

宮崎滔天役を演じたシライケイタさんはじめ、実力派俳優の熱演に、公演後は観客の多くが興奮冷めやらぬ様子。特に今回は、日本アカデミー賞脚本賞を受賞した詩森ろば氏による脚色で、滔天の妻・ツチやその姉・ナミ（本名は卓）がストーリーテラーとして物語を牽引し、過去に公演された「夢」と一味違う魅力が。観客は一気にその世界へ引き込まれたようでした。続く東京公演も連日満員に近い動員で、宮崎滔天らを広く発信する絶好の機会となりました。



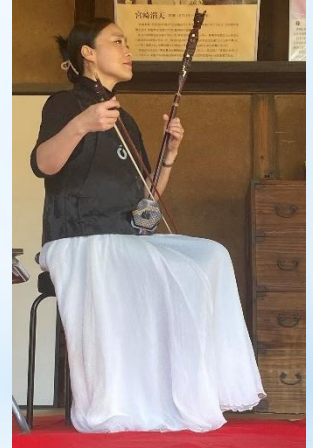
▲イベントポスター



▲(左)舞台関係者で記念撮影 (中央)音楽もあり見所満載の演劇的一幕(右)夫婦以上に同志として、ツチと滔天の心の結び付きを熱演する山崎薫さんとシライケイタさん 【写真：横田敦史】

第29回牡丹茶会 二胡の音色を添えて、お抹茶とお菓子に舌鼓

快晴となった4月8日、荒尾海陽中学校の茶道部の皆様のご協力を得て牡丹茶会を開催しました。前年度に引き続き今回も80名分お呈茶いただきましたが、開始30分で50名分が終わってしまうほどの売れ行きで大変賑わいました。11時から熊本市在住の王怡さんによる二胡の演奏もあり、牡丹の花だけでなく、日中の伝統文化を満喫していただける時間となりました。



▲牡丹が見られる場所として近年は県内でも知られるように。毎年参加して下さる方、熊本市内から参加される方も。二胡の演奏が生家に響き渡り、参加者の視線が王さんにくぎ付けになる場面も。

清々しい初夏の気候のなか、いけばな展開催

5月27～28日の2日間にわたって、今年も荒尾華道会会員の皆様の作品が宮崎兄弟の生家施設を彩りました。2日間とも暑いほどに天気が良く、木陰に涼みながら多くの方がいけばな作品を鑑賞されました。



＊荒尾市宮崎兄弟顕彰基金への寄附のお願い＊

荒尾市では「荒尾市宮崎兄弟顕彰基金」を設置し、宮崎兄弟の生家施設の維持管理や、宮崎兄弟の顕彰事業に活用しています。世界に誇ることができる荒尾の偉人の歴史を次代に継承していくため、寄附にご協力をお願いいたします。



ご協力を
お願いします！

みやじゃっきたみぞう

第16回 音と光の祭典in宮崎兄弟生家

9月30日、快晴のなか滔天マルシェからスタートした音と光の祭典。14時からステージで演奏が、庭では海陽中茶道部による野点もあり、多くの方が来場されました。ステージのフィナーレは、アイリッシュ系音楽ユニットの森和田ーmoriwadaーさんによるコンサートで会場は大盛り上がり。コンサートが終わるころにはちょうど雲間から満月が出て、空もこの祭典を楽しんでくれたよう。一小校区元気づくり会ははじめ、地域の方たちのサポートのもと、一小の児童の皆さんによる運営も慣れたもので無事盛会となりました。



▲(左)マルシェでは一小の子どもたちによるバザーも(中央)一夜だけ特別に結成された「同盟会ブラザーズ」による演奏(右)森和田ーmoriwadaーの森田さんの伸びやかな艶のある声に会場は惚れ惚れ!

第59回 滔天忌俳句大会 4年ぶりに当日句会も

12月6日、今年も荒尾市俳句協会主催で文化センター会議室で事前投句の表彰と当日句会が開催されました。事前投句107名436句の一等には、鹿子生憲二さん(大牟田市)の「滔天を偲ぶ一途の法師蟬」が選ばれ天賞を受賞されました。小中高生34名からの応募もあり、昨年よりも多い参加となりました。また、久しぶりに開催された当日句では、大川内みのるさん(荒尾市)の「まだ遊び足らざる此の世一茶の忌」が一等に選ばれました。



孫文の扁額と白蓮の短冊を寄贈いただきました

令和5年、孫文の扁額と白蓮の短冊を寄贈いただきました。孫文の扁額は、荒尾の在御家人の子孫宅に伝わるものですが、宛名が「宇佐先生」となっており、草木八幡宮の三男で滔天と共にフィリピン独立運動等で活動した宇佐隠来彦宛のものかと考えられます。また、白蓮の短冊は玉名市の個人宅に伝わったものですが、一緒に保管してあった絵も一連のものなのか、別物なのか、歌の内容も特定の事柄に関わるものなのか、他にも例が認められるものなのか、今後詳しく調査を行っていく予定です。いずれの史料も伝えられた経緯がはっきりとは分かりませんが、調査を進め、宮崎家と所縁のある史料として大事に管理していきます。

▲(左)李白の「春夜桃李の園に宴するの序」に拠る?宇佐宛にどういふ意図があったのか(右)短冊には「はびしくと思ふまじとは思へどもなお思はるあきのゆふくれ」とある。一緒に保管されていたススキの絵と情景は合いそう…?



今年も市内小中学校で「日中友好の朝顔」満開

平成29年度より、荒尾市では「日中友好の朝顔」を育てる取組みを市内の小中学校で実施していただいています。本市の子どもたちに幼いころから「国を超えた友情の歴史」に触れてもらおうというもので、引き続き市内12校に取り組んでもらいましたのでご紹介します。

一小

前年度同様、1年児童の皆さんが種まきをし、草取りや水やりをして育ててくれました。

綺麗なピンクの朝顔の花を、今年は押し花にする取組みも。種の採取も行ってもらいました。



万田小

今年度も5年児童の皆さんがお世話をして育ててくれました。この朝顔の由来についても学習して大切に育ててくれたためか、立派にツルを伸ばし、花を咲かせてくれました。



府本小

平井小

今年も、6年児童の皆さんが種まきをして育ててくれました。

そして、9月上旬に5年児童の皆さんに理科の実験で活用してもらいました。昨年は薄紫色の花でしたが、今年は薄い青で花びらの形も少し違うよう...

元の日中友好の朝顔ともだいぶ違います。朝顔は変化しやすいそうでそれも学習になりそう！



今年は環境委員会の皆さんに苗植えと水やりを、また夏休み期間は、高学年児童さんで飼育当番の方に毎日お世話をしてもらいました！子どもたちのお世話のおかげで次々ときれいな花を咲かせてくれました。



八幡小

子どもたちが朝夕通る児童玄関へ続く経路にプランターを置き、育ててもらいました。二階からネットを垂らし、より上へ延びるようにも！4年の児童の皆さんに宮崎兄弟の学習の際、一緒に学習してもらいました。



有明小

毎年、5年理科「植物の実や種子の作り方」の教材として活用してもらっています。

7月に種まきし、育ててもらったところ、大輪の花がたくさん開花したようで、「大変美しく、華やかに学校を彩ってくれています」とのお言葉を頂きました。鉢植え分は、玄関前で来校者の方にも鑑賞していただけたそうです。



緑ヶ丘小



ひまわり学級と2年生のベランダ花壇にて栽培してもらいました。毎日多くの花を咲かせてくれたとのことで、「児童の情操教育に役立っています」とのお言葉を頂きました。

桜山小

環境飼育委員会の子供たちにより、正面玄関横、学校玄関脇でプランター植えをして育ててもらいました。



中央小



今年も5年児童の理科の学習、そしてグリーンカーテンとして活用してもらいました。

三中

今年も、生徒会執行部の皆さんが種まきから、支柱立てまでして大事に育ててくれました！ほかの花とともに、学校を彩ってくれたようです。



海陽中

今年も生徒会役員の皆さんによりプランターに種まき、草取りと丁寧に着けてもらいました。「毎日水やりをして、綺麗な朝顔が咲きました。これからも日中友好の証として活動を続けていけたら」との感想を頂きました。



四中

今年も吹奏楽部の皆さんが育ててくださったとのこと！素敵な演奏を聴いたからかな...?朝顔も綺麗な花を咲かせてくれたようです。



書籍紹介⑦

嵯峨隆

『アジア主義全史』（2020年、筑摩書房）

日本が明治という近代国家になってから、どのようにアジアに向き合い、今日に至ったのかについて、日本・中国・朝鮮をめぐる思想を対象にその展開を丁寧に追った一冊。本書で、彌蔵や滔天が説く「支那革命主義」を「人種闘争説の構図も見えるが、人権や自由といった普遍的価値の強調はそれを後景に追いやり、彼等の革命論を際立たせた」と、当時の他のアジア主義者たちと一線を画すものと評価しています。また、辛亥革命に至る過程で滔天の思想はアジア主義を超え、時期によってその度合いは変化しているものの、「世界的立場」に立脚していたとして、「明治国姓爺」や国際連盟創設前後の彼の言説を引用し、その中で晩年になってもその思想や理想には「三代の治」が一貫して存在していたことを指摘しています。



宮崎兄弟の生家スケジュール（令和6年度）

※3月下旬～4月上旬頃、牡丹開花

牡丹茶会（4月13日(土)）

※ゴールデンウィーク開館（4月30日）

初夏のいけばな展（5月11～12日(土・日)）

❁二日目いけばな体験あり〔先着30名〕

※5月末～6月頭 菩提樹開花

※お盆開館（8月13日）

・音と光の祭典（9月下旬）

・滔天忌俳句大会（12月6日）

※開花時期については、前後することがございます。詳細については観光文化交流課（☎0968-63-1274）までお問合せください。

※イベント詳細については、宮崎兄弟資料館HP (<https://www.city.arao.lg.jp/kurashi/shisetsu/miyazaki-kyodai/>) をご覧ください。

～次号予告～

次回の「宮崎兄弟資料館・館報」16号は、2025（令和7）年3月に発行予定です。

掲載内容についてご意見・ご要望があれば、culture@city.arao.lg.jpへお寄せください。